

- 問1 663年、日本軍が唐・新羅の連合軍に敗れ、百済の復興に失敗した戦いを何という？
- 問2 大津宮への遷都などを通じて基礎が築かれた、天皇中心の法に基づく国家を何という？
- 問3 唐や新羅からの侵攻に備えて、九州北部の防衛のために配置された兵士を何という？
- 問4 大津宮で政治を行った天智天皇が作成した、日本で最初の全国的な戸籍を何という？
- 問5 663年、日本が朝鮮半島での拠点を維持するために兵を送り、唐・新羅連合軍と戦った国を何という？
- 問6 聖徳太子が、家柄にこだわらず才能や功績のある人物を役人に登用するために定めた制度を何という？
- 問7 白村江の戦いのあと、日本に亡命してきた人々など、大陸から高い技術をもたらした人々を何という？
- 問8 壬申の乱で敗れた大友皇子の父であり、大津宮へ遷都した天皇は誰？
- 問9 白村江の戦いのあと、九州の防衛や外交の拠点として置かれた役所を何という？
- 問10 壬申の乱で大友皇子と皇位を争った、天智天皇の弟は誰？
- 問11 中国の隋や唐の制度を手本として、古代日本で編纂・施行された国家の基本となる制度を何という？
- 問12 聖徳太子が、中国の隋から進んだ政治制度や文化を学ばせるために派遣した人物は誰？
- 問13 聖徳太子が、中国の隋に対して対等な外交関係を求めて送った使節を何という？
- 問14 飛鳥時代に、推古天皇の摂政として仏教を広め、法隆寺などを建立した人物は誰？
- 問15 奈良県の法隆寺などが該当する、飛鳥時代に日本で発展した現存する最古のものは何？
- 問16 7世紀前半に栄えた、日本で最初の本格的な仏教文化を何という？
- 問17 聖徳太子によって建立され、世界最古の木造建築物群として飛鳥文化を象徴する寺院を何という？
- 問18 推古天皇のもとで摂政として登用され、聖徳太子とともに政治を行った有力豪族は誰？
- 問19 推古天皇が才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？
- 問20 法隆寺が位置しており、飛鳥文化の中心地でもあった現在の都道府県はどこ？
- 問21 7世紀後半、壬申の乱で勝利し、天皇を中心とした国づくりを強力に進めた天皇は誰？
- 問22 推古天皇の時代、中国へ進んだ制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？
- 問23 十七条憲法において、政治の指針として取り入れられた、インドで生まれ朝鮮半島を経由して伝わった宗教は何？
- 問24 663年に、百済復興を目指した日本軍が唐・新羅の連合軍に大敗した戦いを何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 白村江の戦い	663年、現在の韓国付近にある白村江（はくすきのえ）という場所で、日本軍は唐と新羅の連合軍と激突しました。しかし、最新の戦術を持つ連合軍に日本は完敗しました。
問2	答え 律令国家	律令国家とは、国の決まりである「律」と「令」に基づいて、天皇が全国を統治する国家の形です。都に政治の中心を置き、官僚が整備され、国民は公地公民（土地と人民は天皇のもの）という原則のもとで戸籍に登録されました。これにより、日本は法治主義的な性格を強めた国へと生まれ変わりました。
問3	答え 防人	政府は国防を最優先の課題とし、九州の北部に「防人」を配置して警備を強化しました。また、九州各地や瀬戸内海沿岸には水城や山城を築き、万が一の侵攻に備える軍事施設を整えました。これらの防人は、東国などから選ばれた農民が任期を終えて交代で任務にあたるものでした。
問4	答え 庚午年籍	670年（庚午の年）に作成された「庚午年籍」は、日本で初めて全国規模で作成された戸籍です。これにより、政府は誰がどこに住んでいるかを把握し、兵役や租税を課するための基礎資料としました。この正確な戸籍の作成が、後の班田収授法の実施へとつながる重要な足がかりとなりました。
問5	答え 百濟	663年、唐と新羅が協力して百濟を滅ぼそうとした際、日本は百濟を助けるために軍を送りました。しかし、白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗し、朝鮮半島における政治的な拠点を完全に失うことになりました。
問6	答え 冠位十二階	603年に制定された冠位十二階は、役人に大徳から少信まで12のランクを設け、色分けされた冠を授けることで地位を表す制度です。家柄ではなく実力で地位が決まる仕組みを作ることで、朝廷への忠誠心を高め、有能な人材を活用することを目指しました。
問7	答え 渡来人	渡来人たちは、土木建築、製鉄、機織り、漢字や儒教などの学問といった、当時としては極めて高度な技術や知識を日本に伝えました。特に白村江の戦いの後の防衛施設建設や、寺院の建立には彼らの技術が不可欠でした。
問8	答え 天智天皇	天智天皇は、唐や新羅の勢力に備えるために都を近江大津宮へ移し、強力な国家建設を推進しました。特に、日本で初めて全国的な戸籍である「庚午年籍」を作成したことは、国が国民を把握し、税を確実に徴収するための非常に重要な転換点となりました。
問9	答え 大宰府	大宰府は、九州地方（特に博多周辺）を管轄する行政機関です。軍事防衛だけでなく、外国との外交交渉を行う窓口としての役割も持ちました。周囲には「水城」という土木施設を築き、守りを固めたとされています。
問10	答え 大海人皇子	大海人皇子は672年の壬申の乱において、地方豪族の協力を得て大友皇子を倒しました。この勝利により、古代日本において天皇の権威を確立する重要な役割を果たしました。
問11	答え 律令制度	「律」は今の刑法、「令」は今の行政法にあたるもので、これらを組み合わせて国を治める体制を律令制度といいます。この制度により、中央政府が地方を支配し、すべての国民を戸籍で管理して税や労役を課するという中央集権的な国家体制が築かれました。
問12	答え 小野妹子	小野妹子は、聖徳太子の命令を受けて遣隋使として隋の都へ派遣されました。当時の隋の皇帝である煬帝に、天皇の親書（「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」で始まるもの）を手渡し、対等な関係を要求しました。彼はこの命がけの外交を通じ、大陸の優れた文化や法律制度を日本へ持ち帰りました。
問13	答え 遣隋使	遣隋使は、小野妹子らによって何度か派遣されました。単なる交流だけでなく、隋の進んだ政治体制や文化、技術を取り入れることが大きな目的でした。当時の国交においては中国が中心となる朝貢的な関係が一般的でしたが、聖徳太子は「日出づる処の天子」という表現を用いることで、日本が対等な独立国であることを示そうとしました。
問14	答え 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条の憲法を制定し、能力重視の政治や天皇を敬う思想を広めました。また、仏教を深く信仰し、法隆寺や四天王寺を建立するなど、宗教面からも国の平和を祈願しました。
問15	答え 木造建築物	法隆寺の金堂や五重塔などの西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物です。当時の優れた技術を示しており、エンタシス（柱の中央が膨らむ技法）などの特徴が見られます。
問16	答え 飛鳥文化	「飛鳥文化」は法隆寺の釈迦三尊像などに代表される、仏教中心の文化です。建築、彫刻、絵画などにおいて大陸の様式が積極的に取り入れられ、高度な技術が伝えられました。
問17	答え 法隆寺	法隆寺は、聖徳太子によって建立された日本最古級の寺院です。現存する金堂や五重塔などの建物は、世界で最も古い木造建築物群としてユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の建築技術や仏教美術の粋を伝えており、飛鳥時代の高度な国際交流の様子を現代に伝えています。
問18	答え 蘇我馬子	推古天皇が即位した際、馬子は甥である聖徳太子を摂政として登用し、新しい国づくりを主導しました。仏教の導入を積極的に進め、四天王寺の建立などにも深く関わりました。
問19	答え 冠位十二階	603年に制定されました。役人に位を表す冠を与え、その色は徳・仁・礼・信・義・智の儒教的な道徳に基づく階層を示しました。これにより、有力豪族だけでなく、能力のある人物を政治に参加させる道が開かれました。
問20	答え 奈良県	奈良県には法隆寺のほか、飛鳥寺や四天王寺などの初期仏教寺院が建てられ、大陸文化の影響を受けた美術が発展しました。この地域の独自の風土から、日本の古代文化が形作られていきました。
問21	答え 天武天皇	天武天皇は飛鳥浄御原宮に都を定め、天皇を頂点とする専制的な政治体制を確立しました。また、歴史書である『日本書紀』の編纂を命じ、富本銭の鑄造を行うなど、国の基盤整備に力を注ぎました。
問22	答え 遣隋使	607年に小野妹子らが派遣されました。彼らは隋の皇帝に国書を届けて対等な外交関係を求めるとともに、仏教の教義や政治の仕組みを学び帰国しました。これにより日本には大陸の新しい文化が急速に流入しました。
問23	答え 仏教	仏教は神道と共存しながら急速に広まり、特に聖徳太子がその普及に努めました。法隆寺などの寺院が建立され、仏像や彫刻などの仏教芸術も発展しました。十七条憲法でも、仏教を篤く敬うことが説かれています。
問24	答え 白村江の戦い	663年、日本は百濟の遺臣とともに大軍を派遣しましたが、白村江で唐と新羅の強大な連合軍に大敗を喫しました。この敗戦は、当時の日本にとって国際的な大きな転換点となりました。